
傷

春雨定食

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傷

【Nコード】

N6501J

【作者名】

春雨定食

【あらすじ】

フィリップ・アスロウムは一つの夢を持っていた。ほんのささやかな、つつましい、小さな夢だ。けれど、そんな小さな夢は自らの軽率さによって壊れることになる。

懺悔（前書き）

この物語には恋愛要素が含まれておりません。
ギャグは入れていきたいとは思いますが。
何はともあれ頑張っていこうと思います。

懺悔

私は罪を犯しました。

子供心に、軽い気持ちで取った行動が、私に償いきれないほどの罪を負わせたのです。

子供であったことなど、到底言い訳にはできません。

また、その時の私が傷心だったのも、やはり言い訳にはできません。

私の無思慮さと軽率さが、一人の命を奪う結果になったのですから年齢や心の不安定さなどを、言い訳にはしたくないのです。

ほんの少しの気遣いでよかったのです。

ほんの少しの行動でよかったのです。

ただ彼女の傍にいただけでも、まったく違った結末が得られたでしょう。

けれど私はそれを一切しませんでした。

少し考えれば、分かる事でした。

あの娘こが耐えられるはずはなかったのです。

とても優しい娘でした。

自らが踏んでしまった蟻一匹にまで涙を流すような、とても優しい娘だったのです。

ですが、とても弱い娘でした。

日の昇っている明るい時にさえ、一人でトイレにも行けないような臆病もので、大人から睨みつけられただけで泣きだすような、弱い娘だったのです。

あの娘が耐えられるはずはなかったのです。

弱いあの娘が、あの状況で、生を選ぶわけがなかったのです。

私は罪を犯しました。

それは、例え彼に殺されようとも、償える罪ではありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6501j/>

傷

2010年10月11日22時23分発行